

第18期 施設見学会が開催されました

1月22日（金）、前々日の雪が若干残る東京都清瀬市に（株）大林組の技術研究所を訪れました。大林組は大成建設、鹿島、清水建設等を建設工事受注高で鼻一つリードする日本の建設会社であり、この研究所は世界中からの研究委託や共同研究を行っているとのことから、中々見学も難しい施設とのことでしたが、我ら区民協議会の実績（？）と横浜市の後押しで見学が実現しました。

研究所の研究内容は建物の耐震・免震性の研究はもとより、更に一步進めたコンピューター制御により“揺れ”と逆方向から力を加える制震建物の開発、超高強度鉄骨・超高強度コンクリート・耐火性のある塗料等の材料開発、そして環境にやさしい建材を使用し、太陽光発電・地中熱・廃熱・蓄電池を駆使したゼロ・エネルギービル、無音響室を造ることでの適切残響効果測定による音響空間の創出、国産木材の有効利用等、様々な研究をしています。驚くことはそれらの殆どを、この研究所の業務棟として実際に使用しながら実践実験していることです。また、地震を再現できる設備や、振動体験装置、火災による燃焼実験設備、電磁波コントロール実験設備等の国内最高クラスの設備を備えており、一日かけても見切れない程の施設でした。

とにかく、驚くような巨大な研究所での多種多様にわたる研究開発を目の当たりにし、今後、これらの研究成果の多くが間違いなく数年先に実用化され、大災害時の建物被害の減少や、地球環境の悪化防止等にも効力を発揮すると思うと大変心強く、また明るく嬉しい思いを感じました。

しかし、研究所を出て施設を振り返りながら、近年問題が発覚している耐震ゴムの強度偽装、アルミサッシの耐火強度不足、トンネル内でのコ



ンクリート剥離落下、基礎杭の長さ不足でのマンション傾斜など人為的ミスによる事故の続いている現実の社会を考えると、科学技術の進歩と同時に、人の心の育成も併せて重要なのでは…と複雑な思いにもなった見学会でした。